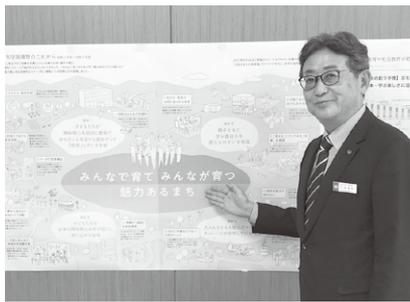


飛騨市学園構想

SUPER COMMUNITY SCHOOL

今年度の飛騨市学園構想

飛騨市学園構想ビジョンと下出教育長

◆飛騨市学園構想とは？

「飛騨市学園構想」の取り組みも5年目を迎えました。「飛騨市学園構想」は、社会・地域総がかりで、予測困難な時代を生きる子どもたちに「幸せな人生と持続可能な社会の創り手となる力」を育むことを目的とする地域教育魅力化プロジェクトです。

目指す未来の創り手像を「志を語り合いしなやかに挑み続ける飛騨びと」、創りたい地域像を「みんなで育てみんなが育つ 魅力あるまち」として、取り組んできました。

◆今年度の取り組み

本年度は、「防災教育」について重点的に取り組みます。自分の命を守る、他の人の命を大切にする、児童生徒が自分たちで考え、地域の皆さんと共に取り組み、災害に備えて命を守る課題解決の学びを進めていきたいと考えています。防災や被災後の課題解決は、地域全体の課題です。そのため、共に取り組む必然性があり、探究や学びの深まりを共有できる良さがあります。「防災教育」に取り組むことは「みんな

で育て みんなが育つ 魅力あるまち」に直結するものと期待しています。

地域の皆様のご理解、協働をよろしくお願いたします。

飛騨市教育長 下出 尚弘



昨年の防災タウンウォッチングの様子
ハザードマップで公衆電話や避難所等を確認しているところ

問 学校教育課 ☎0577-73-7494

今月のゼロカーボンアクション



COOLBIZ
環境にも健康にも
良い夏の過ごし方

環境省は、平成17年から地球温暖化対策のため、過度な冷房に頼らず快適に過ごせる軽装や取組を促すライフスタイル「COOLBIZ(クールビズ)」を推進しています。

室温の管理

「適正な室温」の目安

28℃

28℃はエアコンのリモコンなどの設定温度ではなく、あくまで部屋の温度、室温の上限としての目安です。すなわち、室温を必ず28℃にしなければいけない、ということではなく、冷房時の外気温や湿度、「西日が入る」などの立地や空調の種類などの状況、また、体感温度は人によっても異なることから、室内にいる方の体調等を考慮しながら、無理のない範囲で冷やし過ぎないように、室温の管理をお願いできればと思います。

夏こそ適度に汗をかく生活を

エアコンで体を冷やし過ぎないように、扇風機を利用するなど「体感温度」を下げる工夫をしましょう。冷えに慣れて汗をかかないしていると汗腺が退化して、体温調整機能が働かなくなってしまう危険があり、発育期の子供にとっては大問題。高齢者も体温調整機能が低下しているため、暑さや冷えへの対応が苦手です。適度な冷房使用について、家族が気をつけてあげてください。クールビズは、地球にも「人」にもやさしい取組です。

COOLBIZ を実践しよう

一つの部屋に集まって
エアコン稼働も一台に

グリーンカーテンで
お部屋を涼しい木陰に

こまめなフィルター清掃で
エアコンの効き目アップ

夏野菜やかき氷を食べて
身体の中からクールダウン

機能・素材を活かした
スポーツアイテムの着用

風鈴や金魚を飼ったり
涼しげなアイテムを
生活に取り入れる

外出前にカーテンを閉め
部屋に熱がこもらない工夫

使わない家電の
電源は OFF に

最新機器の購入で
快適性と省エネ性能の UP

朝や夕方の打ち水

うちわや扇子を利用して
体感温度を下げる

冷却ジェルシートや氷のう
など冷感グッズを活用

年間のCO₂削減量 ・19kg/人 冷房の設定温度を今よりも1℃高く、暖房の設定温度を今よりも1℃低く変更した場合

問 環境課 ☎0577-73-7482

まめなかな

はしかの唯一の予防は
ワクチン接種です

～1歳になったら麻疹風疹混合(MR)ワクチンを接種しましょう～

はしかの感染者が国内で2024年4月3日現在、すでに21例が確認されています。はしかは「麻疹(ましん)」ともよばれ、ウイルスにより感染します。感染力が極めて強く、飛沫や接触による感染だけでなく、空気感染も起きます。手洗いやマスクでは防げません。免疫がない場合、感染者と同じ室内にいただけでほぼ確実に感染するといわれています。感染者1人あたりが免疫を持たない人にうつす割合はインフルエンザが2～3人に対し、麻疹は約12～14人

です。感染すると30%の方に何らかの合併症がでて、その半数は肺炎です。合併症による死因で多いのは肺炎と脳炎で1000人に1人が亡くなっています。

また麻疹にかかったあと、約5～10年後に発症する「亜急性硬化性全脳症(SSPE)」という病気も10万人に1人の割合で発症し、急に日常の行動ができなくなったり、寝たきりになったり、亡くなることもあります。子どもだけでなく大人も発症し重症化します。残念ながらはしかの治療法はなく、症状に応じた治療をするしかないため、ワクチンで感染を防ぐことが重要です。

かつて麻疹のワクチンがない頃は多くの方が麻疹感染により命を落としていました。1963年にワクチンを公費で接種できるようになり、集団免疫が高くなったことで流行が起こりにくくなりました。しかし、ここ

数年ワクチンの接種率が低下してきたことで免疫を持たない人が増えたこと、麻疹が輸入感染症として国内に持ち込まれるリスクが高くなったことで感染症の大流行が危惧されています。

そのため感染症に弱い人たちや何らかの事情でワクチンが打てない人たち(例えば1歳未満のお子さんや妊婦さんなど)を周囲の人たちが守るということが重要です。ワクチン接種により子どもの命と健康に関わる病気を予防できるのは大きなメリットです。

お子さんの予防接種を確認してみてください。

◆麻疹風疹混合(MR)ワクチンの定期接種期間

1歳になってからと小学校入学前の2回

問 古川町保健センター

☎0577-73-2948



そろそろ 終活

<その51> はじめませんか?

おひとりさまの終活

「おひとりさま」と一口に言っても、その状況は様々です。生涯独身の人、配偶者と何らかの理由で別れた人、一緒に暮らす子どもやきょうだい等の親族がいない人…。また、親族がいても、その人が高齢であったり認知症等の病気を発症していたりして、頼れる人が身近にいないという人も当てはまります。

「おひとりさま」は、自分に何かあった時や歳を重ねることで、多くの困りごとが起こってきます。

例えば、突然の病気やケガなどで

の入院や一人での生活が難しくなった時のお金の管理など、さまざまなことがままならなくなります。

また、自分の死後においても葬儀や納骨、公的手続の届出、契約料金の解約、家財の処分などを誰がやるのか、誰に頼むのかということも考えておかなければいけません。

終活は残された家族のために行うというイメージが強いようですが、一人で生活している人だからこそ、ぜひ取り組んでいただきたいことなのです。

まずは、終活の入り口である『エンディングノート』を書いてみましょう。ノートを書くことで課題も見えてきますし、書いた内容を自分が万一の時に誰かに伝えることもできます。

また、近い親族がいなければ、あらかじめ信頼できる人と任意後見契約を結ぶという方法もあります。

助けが必要なとき、困った時は誰

かに相談してみてください。あなたは決してひとりではありません。



7月の終活セミナー

『おひとりさまに必要な終活とは』 (生前準備と後見)

- 7月7日(日) 13:30～15:00
- 神岡町ふれあいセンター
- 定員25名

お申し込みは下記まで

※参加者にはエンディングノート・終活ガイドブックを進呈

問 予 飛騨市終活支援センター
(飛騨市社会福祉協議会内)

☎0577-73-3214